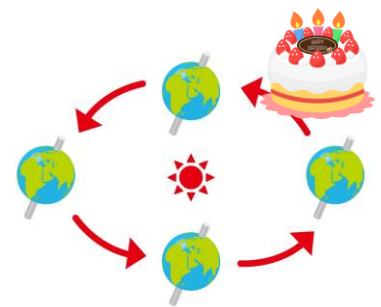




## 1 年間は365日？

平年の年間日数365日は、地球が太陽の周りを1周する公転周期にあたります。ところが、地球の公転周期は正確には365.25日なのです。1年ごとに、約0.25日（6時間）だけずれてしまうのが、今の太陽暦の特徴です。4年間では $6 \times 4 = 24$ （時間）となり、約1日分ずれてしまうことになります。それを調整するために、4年ごとに「うるう日＝2月29日」を設け、そのずれを調整しているのです。そして、2月29日がある年を「うるう年」としています。この「うるう年」ですが、4年に1度のオリンピックが開催される年と重なっています。直近では、2020年に行われるはずだった東京五輪の年でした。次の「うるう年」は、来年2024年のパリ五輪です。



さて、なぜこのような話になったのかというと、低学年の子供が、「去年は誕生日が日曜だったのに、なんで今年は月曜にあるの？」という素朴な疑問の声を耳にしたからです。確かに去年の6月26日は日曜日でした。しかし、 $365 \div 7 = 52$ あまり1、つまり1年間は52週分あり、あと1日あります。つまり去年の6月26日から数えた365日目にあたる今年の6月25日が日曜日となり、翌日の26日は月曜日となります。このように誕生日の曜日は、1日ずつ曜日がずれていくのです。ところが、途中で「うるう年」を挟むと、 $366 \div 7 = 52$ 余り2、となり2日分ずれることになるのです。つまり来年の6月26日は、水曜日ということになるのです。地球の公転周期から、誕生日の曜日を知ることができるというお話でした。

## てるてる坊主のお話

教室を回っていると、子供たちの手作りのてるてる坊主が飾ってあります。沖縄の梅雨明け宣言を耳にしながら、九州北部の梅雨明けは7月中旬以降とまだまだ先の長い話だと思いました。ところで、このてるてる坊主ですが、江戸時代の川柳や浮世絵に登場していることから、江戸時代に始まったと考えられています。起源ははっきりとはしないようですが、有力説が2つあるそうです。一つ目は、中国の「掃晴娘（そうせいじょう）」と呼ばれる風習が日本に伝わったという説です。大昔の中国で大雨が何日も続き、ある女の子が自分を犠牲に神様に命を捧げ、雨を止ませたという言い伝えからきているそうです。掃晴娘は、ほうきを持った女性の形をした紙人形です。てるてる坊主と同じように軒下に吊るしたそうです。二つ目の説は、民俗学者の柳田国男さんが主張した「天気祭（てんきまつり）」が起源となった説です。天気祭は、大雨を降らせる悪霊をわらなどに閉じ込め、燃やしたり川に流したりして、悪霊を追い払う行事です。かつては全国の集落で行われていて、次第に廃れ、徐々に個人の家で行われるようになり、てるてる坊主になったという説です。



いずれにしても、1日でも早く梅雨が明けて、すっきりとした天気になることを願っています。また突然の大雨等があるかもしれません。天気予報をしっかりと見ておくことが備えとなり、身の安全を守ることに繋がります。